

教 育 研 究 業 績 書

2022年5月1日

氏名 山田 秀樹

| 研究分野 | 学位 | | | |
|---|--|----------|---------------------|----|
| 看護学 | 修士(人間科学) 東亜大学 | | | |
| 研究内容のキーワード | | | | |
| 基礎看護学、理論看護学、臨床看護一般、看護学教育、看護の統合 | | | | |
| 教育上の能力に関する主な事項 | | | | |
| 事 項 | 年 月 日 | 概 要 | | |
| <u>1. 教育方法の実践</u> | | | | |
| 1) 学生の授業でのつかみ方を教育に生かし学びを自ら辿れる全回使用の自由記述出席シートの活用 | 平成10年6月～現在 | | | |
| 2) 学生の看護のためのグループづくりと主体的な準備を促進する段階的な臨地実習オリエンテーション | 平成14年4月～現在 | | | |
| 3) 器官特性と生活特性のイメージを重ねた看護のための対象特性のアセスメントを志向する看護学授業法 | 平成15年4月～現在 | | | |
| 4) 記入式resumeとバズ討議法を併用した双方向授業の展開 | 平成16年4月～現在 | | | |
| <u>2. 作成した教科書、教材</u> | | | | |
| 1) 理論的思考で一貫した看護実践方法論(看護過程)による演習・実習記録用紙、看護実践事例の分析・教材化 | 平成16年4月～現在 | | | |
| 2) 看護技術のセルフチェック式ワークシートの作成 | 平成16年4月～現在 | | | |
| 3) 看護の統合的実践と学び合いを引き出すテーマ設定型複合事例の教材化と教育方法論の提示 | 平成21年4月～現在 | | | |
| <u>3. 実務の経験を有する者についての特記事項</u> | | | | |
| 1) 高大連携～高等学校・中等教育学校出張模擬授業 | 平成12年9月～現在 高校・中高一貫・中等教育校計17件 | | | |
| 2) 臨床看護師研究指導講師(講義含む) | 平成16年4月～18年3月(市立甲府病院)、平成23年4月～27年3月(国立病院機構東京病院・国立病院機構埼玉病院) | | | |
| 3) 臨床看護師教育プログラム講師(講演・主任研修) | 平成17年8月(市立甲府病院:生を全うした方への看護)、平成25年11月(厚生年金事業団:看護理論) | | | |
| 4) 県看護実習指導者講習会指導講師 | 平成14年10月(神奈川県)、平成19年9月～20年12月(神奈川県) | | | |
| 5) 看護教育者の教育研修プログラム講師 | 平成22年3月(都立看護専門学校:エンゼルケア教育の意義) | | | |
| 6) 市民公開講座・健康講話講師 | 平成25年6月(さいたま市:元気な食の秘訣)、平成30年3月(狭山市柏原:指圧体験～自然治癒力を自ら高めて健やかな生活を!) | | | |
| 7) 保健福祉施設の職員研修プログラム講師 | 平成30年3月(東京都板橋福祉工場・区立新宿福祉作業所他:ケアと虐待について-ケアの原理から考える) | | | |
| 8) 社会福祉法人役員役職者研修会講演講師 | 平成30年11月(日本キリスト教奉仕団:地域共生社会の中で、より現場で求められるケアとは、虐待防止のための手立てとは) | | | |
| 職務上の実績に関する主な事項 | | | | |
| 事 項 | 年 月 日 | 概 要 | | |
| <u>1. 資格、免許等</u> | 看護師免許 | | | |
| <u>2. 所属学会</u> | 日本看護科学学会、日本看護学教育学会、看護学矛盾論研究会、日本臨床死生学会、ナイチンゲール研究学会、日本ヒューマンケア科学学会他 | | | |
| <u>3. 実務の経験を有する者についての特記事項 外部委員等</u> | | | | |
| 1) 日本看護協会出版会「ナーシング・トゥディ」誌アドバイザー委員 | 平成6年1月～平成8年3月 | | | |
| 2) 看護学矛盾論研究会副会長・事務局長 | 平成16年4月～現在 | | | |
| 3) 第35回日本看護科学学会学術集会査読委員 | 平成27年6月～12月 | | | |
| 4) 第36回日本看護科学学会学術集会実行委員 | 平成28年12月 | | | |
| 5) 社会福祉法人日本キリスト教奉仕団評議員 | 平成27年9月～現在 | | | |
| 6) 日本私立看護系大学協会研究活動委員会委員 | 平成29年10月～平成30年3月 | | | |
| <u>4. その他 大学運営役割等</u> | | | | |
| 1) 目白大学 学務副部長(入試担当)・入試広報委員長等 | 平成23年4月～平成29年3月 | | | |
| 2) 西武文理大学 広報委員長・キャリア開発委員長・カリキュラム検討委員長・大学学務システム運営委員長・大学情報システム副委員長・大学ホームページ運営副委員長、現在:教務委員長・内部質保証委員長等、看護学科長(令和3年4月～) | 平成29年4月～現在 | | | |
| 研究業績等に関する主な事項 | | | | |
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |

| | | | | |
|--|----|----------|------------------------------------|---|
| (著書) | | | | |
| 1. 腹部のフィジカルアセスメント | 共著 | 平成18年2月 | 学習研究社 | 概要：臨床における看護実践技術として要請の高いフィジカルアセスメントの実践解説書の中で、看護者の立場から腹部の構造と機能を論じた。作業的・手順的な技術習得とならず、体の内部構造のイメージに導かれて技術が表現できるよう、器官特性に重点をおいて述べた。併せて付属CD-ROM聴診音の腸音収録システムの開発面も担当した。城丸瑞恵・副島和彦編集、山田秀樹(第1章<3>腹部の消化器系) |
| 2. 基礎看護学resume集-看護理論編- | 共著 | 平成18年3月 | ブイツーソリューション | 概要：体系的に構築して教授した基礎看護学領域における実際の授業で使用した記入式resume・資料を集約し、個別なあり方を捨象し精選・発展させて一般化したものをresume集としてまとめ社会化した。本書には看護理論編として、看護理論と看護理論の展開(看護実践方法論)に位置づく科目を収録。看護理論の展開(看護実践方法論)部分を担当し、科目をこえ看護学に共通の実践を導く=事例を解く頭の働き方を論述し研究会叢書として編集を担った。三瓶眞貴子監著、山田秀樹(I resume編: 8.看護過程展開方法論, 9.看護実践基礎論, 到達レベル評価表, II資料編, おわりに) |
| 3. ナースのための聴診スキルの教室 | 共著 | 平成19年3月 | 学習研究社 | 概要：ナースが臨床における日常ケアのなかで、患者の身体面を気遣って聴診という観察技術を用いる際に、人間の体内器官各部をどのように描き出すことが看護の必要性の把握を導きやすいかという観点で、腹部消化器官の構造と機能について大づかみにできるよう論述し、器官特性のイメージの仕方のポイントを述べた。岡安大仁監修、山田秀樹・副島和彦・他(part4腹部の聴診技術A to Z) |
| 4. 改訂版ケアとしての死化粧-エンゼルメイクから見えてくる最期のケア | 共著 | 平成19年5月 | 日本看護協会出版会 | 概要：改訂を機にエンゼルメイク・エンゼルケアとグリーフケアとの重なりへの言及と、理論研究や教育実践の成果の反映を軸に再編・論述した。看護教育者の立場から、最新の理論研究の成果を適用して、エンゼルケア教育の背景と現状、エンゼルケアの原理的・構造論的理解と教育展開の実際、グリーフケアの構造的の理解・実践について新たに論述した。死や看取りの実体験が乏しい看護を志す者にも、よく看護するための死生観を育むことを通してよいエンゼルケアが表現できるように、看護基礎教育での骨子を述べた。小林光恵・エンゼルメイク研究会編集、山田秀樹(第2章<4>エンゼルケアの看護教育) |
| 5. 慢性期看護・ターミナルケア・緩和ケア～対象とのコミュニケーションからケアに至るプロセス | 共著 | 平成22年4月 | ピラーブ・レス/日本放射線技師会出版会 | 概要：改訂新刊行を機に慢性期看護・ターミナルケア・緩和ケアの理論・実践両面の精選と拡充の一環で、死生観の新規項の論述を担当した。対象(患者・家族)の死生観と看護職者の死生観の双方について、死生観の性質と形成のあり方から専門的なとらえ方・看護への生かし方までを研究成果をふまえて整理し、「死生観とは～現代の死生観形成の特徴～患者の死生観・家族の死生観～看護者の専門的死生観と看護の展開」に柱立てて著した。伊藤まゆみ監修、山田秀樹(Chapter3<4>死生観) |
| (学術論文) | | | | |
| 1. 心臓手術患者の自己認識変容過程にみる同一性 | 共著 | 平成15年11月 | 臨床死生学 第8巻 第1号、日本臨床死生学会(P. 7~16) | 概要：修士課程における研究を発展させ、直接不可視ながら手術患者の回復に大きく影響する自己に対する認識変化に迫り、認識内部での矛盾状況に対する自己の同一性を見出すことにより、看護援助への示唆を得ることを目的として研究した。心臓手術後の患者への面接から、患者が生きて生活している自己に照らして体験や将来を意味づけ像をつくりかえていること、患者の過去から将来への自己の像には連続性があって生の確実性として貫かれていることが共通する同一性として見出せた。像の連なりが持てるよう看護援助する必要性が示唆された。山田秀樹、高橋美紀、伊藤收、小幡セイ、田口ヨウ子 |
| 2. 学部教育における積み上げを学生が自覚し看護実践能力として統合し駆使する授業の取り組み | 単著 | 平成29年3月 | 人と教育11、目白大学教育研究所(P. 36 ~41) | 概要：カリキュラムの最終履修科目として、学科D Pを達成し看護学の学びを対象への実施・評価や自己研鑽に生かすことと、看護職者として自ら立つて社会に歩み出せる実践能力を備えることが、授業を通じた学習成果として期待される授業への取り組みのねらいと内容、方法(意図した展開と特徴的な教材、態様等)、評価について述べた。 |
| (学会発表、講演など) | | | | |
| 1. 高校生への「がん教育～がんを理解して支えあえる社会について主体的に考える～」の取り組み | 共同 | 令和3年10月 | 第26回日本臨床死生学会年次大会 | 概要：人々ががんと共に生きる社会を目指して高校生へのがん教育に取り組み、将来の社会を担う高校生のがんに対する理解を深めるとともに、どう生きるかを考える機会になると示唆され報告した。小野智恵美、山田秀樹・桐明輝迪、小寺栄子他 |